

# 医科研病院だより



第70号

発行：東京大学医科学研究所附属病院  
令和8年1月15日  
〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1  
代表電話03-3443-8111  
ホームページ <https://www.h.ims.u-tokyo.ac.jp/>

【CONTENTS】 <新年の挨拶>「総合診療科」から「腫瘍・総合内科」へ・・・1  
<診療科長就任のご挨拶>病理診断科の紹介 ……2  
<すこやかカフェ>『組織球症ねっと』開設のお知らせ ……3  
<なんでもひろば>クリスマスコンサートを開催 ……4

## <新年のご挨拶>

### 「総合診療科」から「腫瘍・総合内科」へ

病院長／腫瘍・総合内科科長 朴 成和



明けましておめでとうございます。「腫瘍・総合内科」をご紹介します。

診療科名として、「腫瘍内科」と「総合内科」はよく聞きますが、「腫瘍・総合内科では、どんな診療をしているのだろう?」と疑問に思われる方が多いと思います。「腫瘍・総合内科」という名称には、歴史的な

背景があります。当院の使命は「難病の克服」であり、最先端の科学技術と知見を用いて革新的医療を開発し、社会実装することを目指しています。研究所で開発された成果を臨床応用するために、当院の多くの診療科は研究所の研究分野と紐付いています。しかし、それらの診療科だけでは診療が成り立ちませんので、「総合診療科」がその不足部分を埋める形で、糖尿病・代謝、循環器病、消化器病の検査や診療を担っておりました。2021年7月に抗がん剤治療を専門的に行うために「腫瘍内科」を設立するために私が着任しましたが、「総合診療科」のポジションを引き継ぐことになり、両者を合わせた「腫瘍・総合内科」という名称が

(マ)決定されました。その後、消化器内科と循環器内科が独立したため、現在の「腫瘍・総合内科」は、腫瘍内科医3名と糖尿病・代謝の専門医1名が在籍しており、2つの部門があるご理解下さい。

腫瘍内科部門としては、標準治療のエビデンスとなった臨床試験のプロトコルまで理解した精緻な化学療法を行うだけでなく、多科・多職種でのチーム医療によるUnmet Needs(アンメット・ニーズ:医療現場で、いまだ光が当てられていない患者の潜在的な医療的要求)への対応をしており、治療効果を高めるための臨床試験だけでなく、副作用軽減のための臨床試験、新薬の治験を行っております。また、標準治療がなくなった後にも、何らかの工夫を考案するように心がけております。特に消化器領域においては、消化器内科による内視鏡的治療、外科によるロボット手術、腫瘍内科による抗がん剤治療と、先端緩和医療科による終末期医療まで、高いレベルの診療を行うことができると自負しております。また、糖尿病・代謝部門としては、一般的な代謝・内分泌疾患の診療をしているだけでなく、近年問題となっている免疫チェックポイント阻害薬の副作用による内分泌障害も対応しています。また、糖尿病教室や肥満外来も開始予定です。

このように専門的な診療を行っておりますが、今も「総合診療科」としての精神を引き継いでおりますので、「何か病気のことで相談したい」と思われた際には、お気軽にお声がけいただければ幸いです。



キャンサーボード(がん治療の専門家によるカンファレンス)



医科研病院MCST(がん治療多職種連携チーム)



## <診療科長就任のご挨拶>

### 病理診断科の紹介

#### 病理診断科長 森田 茂樹

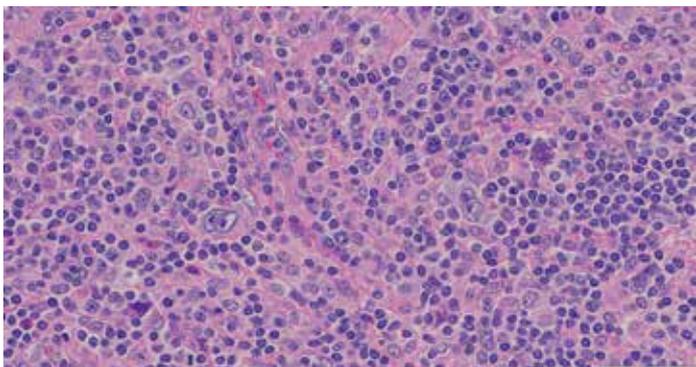


みなさま、はじめまして。12月から病理診断科に着任しました森田茂樹と申します。いきなり病理診断科といわれてもなじみのない方が多いと思いますので、簡単に紹介をさせていただきますと思います。

病理診断科・病理検査室では医師(病理医)と、診断に必要な標本を作製する臨床検査技師が働いています。直接お会いすることは少ない部

署ですが、患者さんの胃、大腸や膀胱などの臓器から採取された組織や細胞に対して顕微鏡などを使って詳しく調べ、病気の種類や性質を判断して、担当医に返事を差し上げています。病理診断はいくつかに分けられますが、当院では上記の組織診断(生検、手術検体)や細胞診断、加えて病院で亡くなられた方に対する病理解剖診断を行っております。

生検診断は、病気がどのようなものかを判断するために、体の一部から小さな組織を採取し、顕微鏡で観察して診断します。例えば(ア)



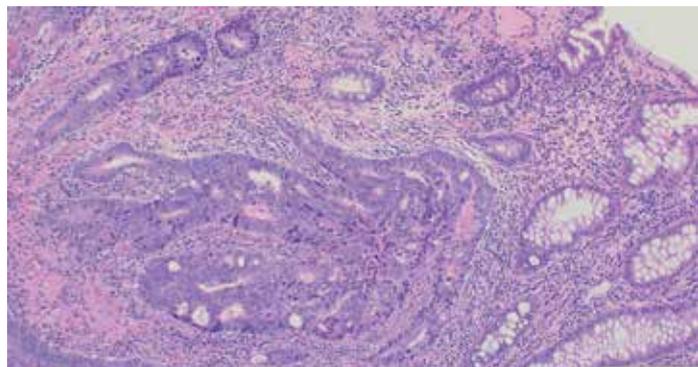
ホジキンリンパ腫の顕微鏡写真(ヘマトキシリン・エオシン染色)

(イ)は、胃の内視鏡検査で病変が見つかり、それが胃潰瘍か、胃がんかを決定するために1~2mm程度の組織をとって調べます。生検の結果がんで手術による治療が選択された場合、手術検体の組織診断も行われます。ここでは、病変の性質(良いものか、悪いものかなど)、広がりや大きさ等を詳しく調べ、主治医に報告致します。この診断によって、追加治療の有無や治療法を選択する手がかりが得られます。最近では、治療選択のために遺伝子検査等に提出する部分を選ぶことも多いです。なお、組織診断はがんだけでなく、炎症を含めたさまざまな病気の確定に用いられます。

細胞診断では、より個々の細胞に注目して診断を行います。例えば、膀胱がんや肺がん等では、尿や喀痰などを顕微鏡で観察すると、がん細胞が見られることがあります。尿や喀痰は痛みを伴わずに採取可能ですので、繰り返し検査することが可能です。このような検体に悪性の細胞があるかどうかを調べるのが細胞診断の目的の一つとなります。

病理解剖は不幸にして病院でお亡くなりになった患者さんに対して行われます。解剖によって死因、病気の進行や適切な治療が行われたかなどを明らかにします。この結果は臨床医に伝えられ、将来の診断・治療の向上に生かされます。

私は2008年に初期臨床研修を修了した後、様々な病院で病理診断を行ってきましたが、この度縁があって医科研病院に着任することとなりました。みなさまにお目にかかることはあまりないかもしれませんが、病理診断を介して少しでもお役に立てます様、日々研鑽を積み重ねていきたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。



大腸がん(腺がん)の顕微鏡写真(ヘマトキシリン・エオシン染色)





## 『組織球症ねっと』開設のお知らせ

血液腫瘍内科 佐藤 亜紀

『組織球症ねっと』とは、患者さん、医療者、研究者がともに協力しながら組織球症の治療の発展を目指すためのサイトです。

われわれは病気を告げられたとき、大きな不安を抱えながらも、少しずつ現実を受け止め、治療や療養について考え始めることができます。ところが希少疾患の場合、情報が極めて少なく、主治医からも「今まで診たことがない」と言われることもあり、患者さんはどう判断すればよいのか分からず、不安が深まってしまいます。実は希少疾患に限らず、病気に向き合ううえで正しい情報を得ることはとても大切なことです。

組織球症とは、白血球の一種である組織球が腫瘍化する造血器の悪性腫瘍です。成人ではランゲルハンス細胞組織球症(LCH)、組織球肉腫、エルドハイム・チェスター病、ロサイ・ドルフマン病などが知られていますが、いずれも希少疾患です。日本では成人LCHの研究が2018年から始まったばかりで歴史が浅いです。

私は研修医の頃、組織球肉腫の病理診断に苦しみ、組織球症の病理診断の難しさを知り、標準治療の情報が無く患者さんも医療者も困る現実を経験しました。その経験から、「まず患者さんと医療者に情報を届けることが大切だ」と考え、2025年4月に『組織球症ねっと』を立ち上げました。

このシステムには2つの方法があります。

- ① 患者さん自身がネットから症例を登録できる仕組み
- ② 主治医が患者さんの同意を得て症例登録と病変組織の保管を行う仕組み

①では患者さんと直接つながることで、診断や治療が遅れがちなケースにも救済の道を広げたいと願っています。また「ニュース(ノ)

(ウ)レター」を通じて最新の医療情報を患者さんに直接届けることも検討しています。②では医療者からの症例相談を受け付け、標準治療の確立に向けた研究を進めていく予定です。

組織球症では細胞の増殖に関わるMAPキナーゼ経路の遺伝子変異によってがん化することが分かっており、分子標的治療の可能性が広がっています。医科研病院では血液内科、病理検査室、遺伝子検査室、放射線診断科、看護部、薬剤部、地域連携室など、多くの専門部門の強みを生かし、『組織球症ねっと』の仕組みを活用しながら、日本における組織球症の標準治療の確立と診療向上に取り組んでいます。

いままで医科研病院血液内科では、他の病院では対応が難しい希少疾患や難病、臍帯血移植などの革新的な治療開発に挑戦し続けてきました。日本の成人組織球症診療は少しずつ形をなしてきていますが、これからは「患者さんや医療者と情報を共有し最先端の医療を地域に届ける」ことを大切にしながら歩みを重ねていきます。将来的には組織球症診療で培った方法を他の希少疾患や難病の診療向上にも応用していきたいと考えています。



『組織球症ねっと』メンバー

# なんでも・ひろば



## 病院クリスマスコンサートを開催

### 広報委員会

12月12日(金)病院A棟8階ミーホールにおいて、数々のコンクールで入賞の実績を持つ、高橋さゆり准教授(泌尿器科長)のピアノ演奏による「医科研病院クリスマスコンサート」を開催しました。

昨年は「市民医療連携懇談会」にあわせて高橋先生にピアノを披露していただきましたが、今回は純粋なピアノサイタルで、医科研病院でこのような音楽イベントを開催するのは、「新型コロナ禍」後のはじめてになります。

「今年も多くの方にご来院いただき感謝の気持ちでいっぱいです。私の日々の仕事の中心は手術であり、手術中は患者さんの(ス)

(ス)体と向き合っているにも関わらず、全身麻酔下で患者さんと意思疎通ができません。それゆえに音楽という手段で多くの方と心を通じることができたのは大きな喜びです。皆様に親しまれる医科研病院となるよう尽力したいと思います(高橋特任准教授)。」

患者さんとそのご家族をはじめ、近隣にお住いの方、クラシック愛好家の方ほか150名近くの方々にお越しいただき、アンケートには、「素晴らしいピアノ演奏を聴かせていただき感動しました」「気分が前向きになり、今後の治療の力になります」など、たくさんの好意的なご感想をお寄せいただきました。

黄昏の街に幕が下り夜景が映えるまで、音楽に包まれたあたたかな時間が流れました。



高橋さゆり准教授(泌尿器科長)



たくさんの方にピアノ演奏を楽しんでいただきました

#### \*\*\* 医科研クリスマスコンサート2025 Program \*\*\*

ショパン	ノクターン8番Op.27-2
ブラームス	間奏曲Op.118より抜粋
ベートーヴェン	ピアノソナタOp.27-2 「月光」
坂本龍一	energy flow
坂本龍一	Merry Christmas Mr. Lawrence ～ 映画「戦場のメリークリスマス」
リー・ハーライン=羽田健太郎	星に願いを～ディズニー「ピノキオ」
ラフマニノフ=平井丈二郎	バガニーニの主題による狂詩曲第18変奏
ショパン	ワルツOp.34-3
<アンコール曲>	
ショパン	スケルツォ第2番Op.31

\*\*\*\*\*

### ◆病院からのお知らせ◆

#### ●臨床検体の取扱いにつきまして

当院での保存・追加採取検体を用いた臨床研究名をお知りになりたい方は <http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imsut/jp/research/sample-information.html> をご覧ください。

## 東京大学医科学研究所附属病院・ご利用案内

### 診療科

内科(血液腫瘍、感染症、リウマチ・膠原病、腫瘍・総合、消化器、循環器)  
外科(一般、腫瘍、消化器)、脳腫瘍外科、泌尿器科、関節外科  
放射線科、麻酔科、遺伝相談

### 外来診療日

月曜日～金曜日(祝日および年末年始を除く)

### 診療受付時間

8:30～11:30(初診・再診)

12:30～16:00(再診のみ)

※予約時間の15分前までに受付にお越しください。

(確実にご受診いただくために、ぜひ予約をお取りください)

予約専用電話(予約受付および変更)

診察: 03-5449-5560

検査: 03-5449-5355

受付時間 8:30～17:00(外来診療日のみ)

### アクセス

- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線で「白金台駅」下車
- JR 山手線目黒駅東口から都バス品93大井町競馬場行で「白金台駅」下車、あるいは都バス黒77千駄ヶ谷行か橋86新橋駅行で「東大医科研西門」下車、または駅より歩いて約15分、タクシーで約5分(1メートル)
- JR 品川駅から都バス品93目黒駅行で「白金台駅」下車
- 東京メトロ日比谷線広尾駅から都バス広尾橋から黒77または橋86目黒駅行で「東大医科研病院西門」下車

